

普及活動情勢報告（平成27年10月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおニラ部会現地検討会



9月8日、J A土佐くろしおニラ部会の現地検討会が須崎市と中土佐町で開催され、生産者21名が参加しました。

農業改良普及課は、品種比較と電照栽培の実証内容・結果について説明しました。

参加者からは、電照栽培で問題となっている出蕾を抑制する技術確立に期待する声が聞かれました。

今後は、有望品種の選定や電照栽培の技術確立に向けて現地検討会を定期的開催していきます。

施設シシトウの環境制御技術実証調査を開始



10月2日から、JA土佐くろしおの施設シシトウ生産者のハウスで環境制御技術実証試験を始めました。

前作から環境制御機器として、炭酸ガス発生機、局所施用用ダクトファン、細霧装置を設置し、結果が良好であったことから、今作も引き続き同様の機器で実証を行うこととなりました。今後、温湿度、CO₂濃度、日射量、飽差などを測定していき、データを栽培管理技術向上や機器の普及拡大に活用していきます。

農業改良普及課は、この取り組みを通して、シシトウの収量・品質向上に関係機関と連携し取り組んでいきます。

J A土佐くろしお生姜部会出荷始め総会



10月5日、J A土佐くろしお販売課2階会議室で生姜部会総会が開催され、生産者15名が参加しました。

農業改良普及課は、今年の天候不順による病害の多発状況と対策、県の農業技術センターで行われている窒素吸収量の測定や白星病防除に関する試験結果を紹介しました。

参加者からは、今後の試験結果に期待する声が聞かれました。

今後は、部会の定例会等で栽培上の注意点及び農業技術センターの試験結果等について情報提供していきます。

高品質のミョウガを新鮮なままに消費者へ届けます



ミョウガは、気温が高い時期の出荷では、市場での腐敗や量販店等での棚もちの低下が問題になっています。

10月6日、県農業技術センターにおいて、研究員やJ A土佐くろしおの協力を得て、ミョウガのパック詰め後の鮮度保持効果を確認する試験を行いました。

農業改良普及課は、調査を継続するとともに、殺菌や抗菌効果が期待できる資材について、今後も積極的に試験や調査を実施していきます。

サヤインゲンのハウスに環境測定装置を設置



10月7日、JA土佐くろしお管内のサヤインゲンで環境制御技術の確立に向けた実証ほを設置しました。

昨年までは簡易な機器で温湿度、炭酸ガス濃度を測定していましたが、今年は環境測定装置(プロファイnder)を設置し、今までの測定項目に日射や外気温を追加して取り組みます。

農業改良普及課は、サヤインゲンの収量・品質向上に向け、現地検討会等を通して実証結果について生産者と検証していきます。

土佐甘とう生産者交流会



10月9日、JA津野山管内で南国市の甘長トウガラシ生産者との交流会が開催され、JA津野山シシトウ部会からは生産者18名が参加しました。

農業改良普及課は、現地でうどんこ病防除や尻腐れ果対策の実証試験の結果について説明しました。

南国市の参加者から、尻腐れ果対策として捻枝の代わりに密植で対応しているという報告があり、有意義な情報交換の場となりました。

今年も「四万十の清粒 特栽 大野見米」の販売開始！



10月18日、JA四万十大野見支所で開催された「大野見しんまいフェスタ」に米のブランド化に取り組むおのおのみエコロジーファーマーズが参加し、「四万十の清粒 特栽 大野見米」を販売しました。

農業改良普及課は、販路拡大を支援しており、おのおのみエコロジーファーマーズが作成したテキストを活用し、来場者に大野見米の魅力をアピールしました。

今後は、メディアとの連携を強化し、さらなる販路拡大を支援していきます。